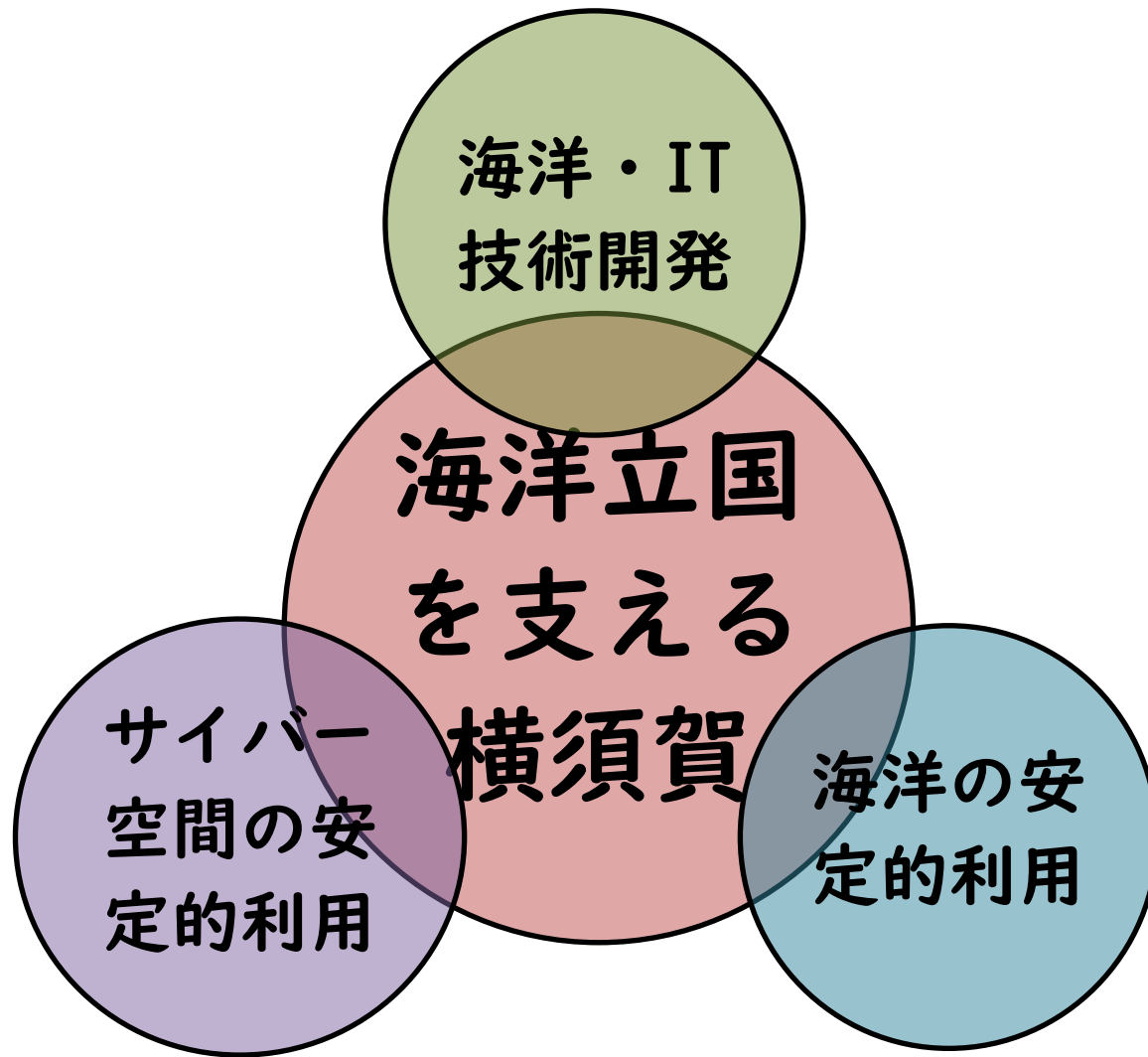
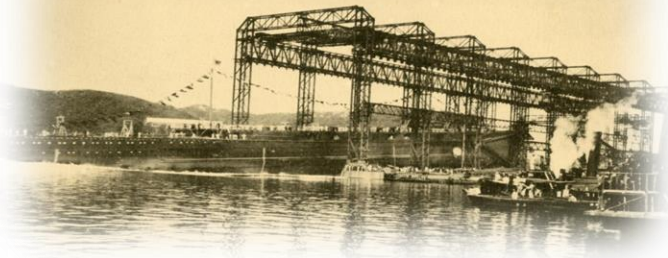


海洋立国日本を支える横須賀



海、船が人、物そして情報を流通させる唯一の手段、そして艦船が力の象徴であった明治の初め、世界の一流国をめざし**急な坂道を駆け上る**とき横須賀は鉄を鑄て船を造り、この国の近代化の扉を開いてきた。



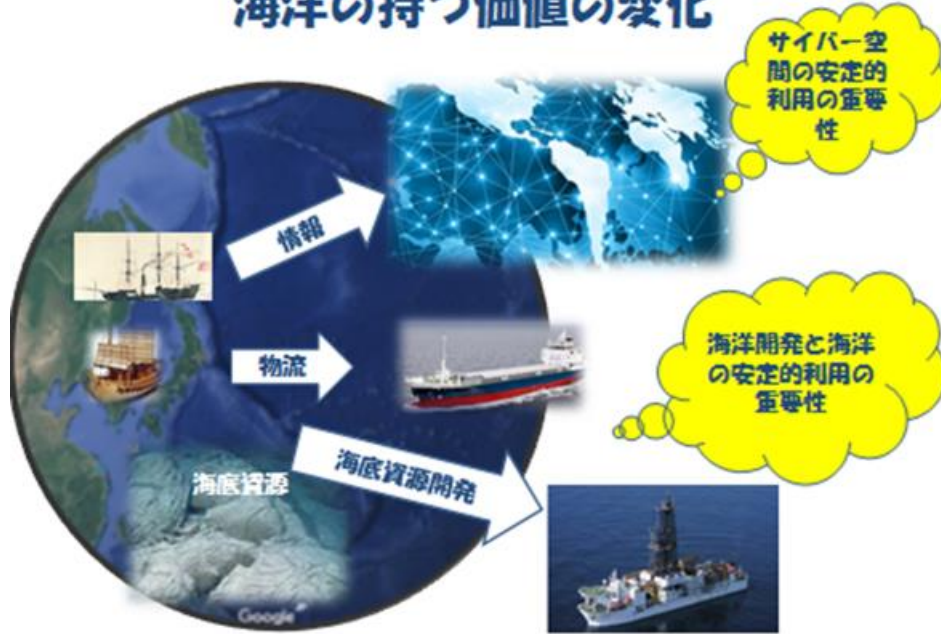
潮の香かがよう追浜に創られた航空隊は、人を育て技術を育み、この国に空の翼を与え。



波に抱かれた観音崎の灯台は、光を灯して行く手を照らし、この国の栄えをもたらした。



海洋の持つ価値の変化



明治から150年をすぎ、時代は大きく変化している。かつて情報を流通させる唯一の手段であった海洋は物流と豊富な**海底資源**へとその重要性をシフトしている。

また情報の流通は船を介しての海洋から**世界を網羅するネットワーク**に完全にシフトした。ネットワークは単に情報を流通させるだけでなく、IoTに代表されるように、我々の生活そのものに浸透し始めている。

一方で17世紀の海洋が、無秩序な領域であったのと同じように、サイバー空間は急激に無秩序な領域として多くの脅威にさらされ始めている。

今我が国に求められるのは、海洋資源の保全・開発と海洋の安定的な利用のための人材育成、そして海洋の秩序を維持、向上するための関係国との協力、同様に新たな領域であるサイバー空間について、人材育成、技術革新、そして新たな秩序を形成するための関係国との協力が重要です。



横須賀には海洋開発を推進する「**海洋研究開発機構**」、海洋の安定、海洋同盟の礎を形成する**海自と米海軍**、また、「**横須賀リサーチパーク(YRP)**」を擁し情報通信技術研究の蓄積を有し、IoTの普及を強力に推進しています。周辺には各種大学研究室もあります。

今まで日本の近代化を牽引した横須賀の近代化の歴史について紹介してきました。

ここでは、「海洋立国日本を支える横須賀」という新たな視点でその一端を紹介したいと思います。